

# 駒衣の伊勢音頭

7月22日(土)、稲荷神社において、駒衣の伊勢音頭が演じられました。駒衣の伊勢音頭は、300〜400年前に、伊勢参りの土産に踊りを習い覚えてきた人たちによって伝えられたのが始まりだと言われており、手拍子や四つ竹に拍子をあわせて「秋の五穀が豊作であるように」「悪疫が流行しないように」と踊りを奉納して祈願します。

この踊りの特徴である「ヤートコセー」の囃子ことが響き渡る中、多くの参加者で賑わいました。



# 広木の屋台囃子

7月23日(日)、広木地区において夏祭りが開催され、屋台囃子が演じられました。お囃子は、大太鼓、小太鼓、笛、鉦の四種類の楽器によって奏でられます。屋台の舞台は、牡丹に唐獅子の彫刻で飾られ、その舞台のうえで、五穀豊穡を祈願しながら囃します。

今年は、3年ぶりに屋台の曳き回しが行われ、多くのかたが参加しました。曳き回す間、途切れることなくお囃子が演奏され、曳き手を鼓舞しながら広木の街中をねり歩きました。



# 猪俣の百八燈

8月15日(火)、猪俣地区において、猪俣の百八燈が行われました。

猪俣の百八燈は、国指定重要無形文化財に指定されており、40年以上続く伝統行事です。猪俣地区内の満6歳から満18歳までの青少年が中心となり、親方・次親方・後見・若衆組・子ども組に分かれて行事を取りしきるのが特色です。

今年も、堂前山にある百八の塚に火が灯され、幻想的な光景が広がりました。

